

昼 13時30分開演 (13時開場)

解説 茂山 茂

ふくのかみ 福の神

福の神 茂山七五三
参詣人・甲 松本 薫
参詣人・乙 丸石やすし

毎年、大晦日に神社へ参詣する二人の男。例年通りに参詣し豆まきをする、どこからともなく福の神が現れ、御神酒を要求します。御神酒を差し出すと喜んで幸せの秘訣を授け大笑いして去っていきます。

本作は朗らかな笑いを誘う縁起の良い名作です。曲中に出てくる松尾大社は京都市西部にあり、酒神として信仰され、今も「福の神」の狂言が奉納されております。

たちうばい 太刀奪

太郎冠者 茂山宗彦
主人 茂山千之丞
道通りの者 茂山逸平

北野天満宮の「お手水」神事の日、主人と太郎冠者は市で見かけた男の太刀を奪おうとしましたが、逆に主人の刀を奪われてしまいます。二人は取り返そうと待ち伏せし、捕えようしますが…。

「泥棒を捕らえて縄を縛う」という諺を題材にした狂言で、神事の日には市に大いに賑わい、現在も7月7日に「御手洗祭」が行われています。

あわたぐち 栗田口

大名 茂山千五郎
太郎冠者 島田洋海
すっぱ 茂山 茂

道具比べに出す「栗田口」を買いに都へ行かされた太郎冠者、栗田口がなにか分からないまま探していると、我こそが栗田口と名乗るすっぱ(詐欺師)に出会います。喜んで連れ帰ると、栗田口が人だと聞いて驚く大名。書物の条件と一致するので雇い入れてしまいましたが…。

栗田口とは京都東山あたりの地名で、古来より刀鍛冶が住んでおり、この刀工の作った刀を栗田口と称していました。

夜 18時開演 (17時30分開場)

解説 茂山千五郎

やわたのまえ 八幡前

賀 茂山 茂
有徳人 松本 薫
太郎冠者 鈴木 実
教え手 茂山千之丞

石清水八幡宮の山麓に住む有徳人が、娘の賀に一芸に秀でた男を公募します。賀入りを志願した特技のない男が知人に相談しますが、一朝一夕で身につく弓や歌などあるはずもなく。一計を案じた知人は、弓の名手に仕立てようとします。八幡の放生川で水鳥を射て外れても、ある和歌を詠めば、有徳人に文武両道に秀でた男と感心され、賀になれるだろうと教えますが…。

いなばどう 因幡堂

男 茂山あきら
妻 茂山宗彦

大酒飲みの妻と離縁したい男は、妻が実家に帰っている間に離縁状を送り付け、新しい妻を得るために因幡堂の薬師如来へと祈願へ行きます。それを知った妻は怒り、薬師如来になりすまし、夫へ「西門の一の階に立った女を妻にせよ」と告げて、先回りします。そんなこととはつゆ知らず、男は喜んでその場所へ向かい新しい妻だと思い、連れて帰りますが…。

「因幡堂薬師」と京都の人々から知られている平等寺は京都市内中心地にあり、他の狂言にもよく登場します。

ろくじぞう 六地藏

すっぱ・甲 茂山逸平
田舎者 茂山千五郎
すっぱ・乙 茂山竜正
すっぱ・丙 茂山虎真

田舎者が辻堂に六地藏を安置したいと都で仏師を探しますがなかなか見つかることができません。そこへ現れたのは仏師だと嘘をついた都のすっぱ(詐欺師)、仲間の二人を呼び出し、六地藏に化けて田舎者をだますことに。地藏は6体、すっぱは3人。さてどのようにして六地藏に化けるのでしょうか？

六地藏は地藏菩薩が六道の衆生を救済することから、京都伏見の大善寺などで古くから信仰されています。

■チケット販売所

JMSアステールプラザ / 082-244-8000、エディオン広島本店 / 082-247-5111
電子チケットぴあ / Pコード:536-560、ローソンチケット / Lコード:61777

座席配置図

■料金
(全席指定・消費税含む)

S席(1階) 4,500円
A席(1階) 3,500円
B席(2階) 2,500円
車椅子席 3,500円

※介助者1名無料(パイプ椅子)
指定席は別途ご購入ください。
※JMSアステールプラザのみ取り扱い



十四世 茂山千五郎

能狂言は奈良で生まれ、京都で発展してきたため、京都の有名な寺社や土地の名前が多数出てきます。狂言を観ながら、京都見物を味わってください。

- 市内電車 ●「広島港(紙屋町経由)」行き / 「市役所前」下車約600m
●「江波」行き / 「舟入町」下車約400m
- 市内バス 広島バス「吉島営業所」行き または「吉島病院」行き / 「加古町」下車南へすぐ
- タクシー 約15分

